

JICS REPORT

【ジックス・レポート】

財団法人 日本国際協力システム

2010

Apr.
No. 74

2010年4月26日【編集発行人：櫻田 幸久】
発行：(財)日本国際協力システム
〒162-0067 東京都新宿区富久町10番5号 新宿 EAST ビル
Tel 03-5369-6960 / Fax 03-5369-6961
E-mail: jics@jics.or.jp / http://www.jics.or.jp

特集

コミュニティ開発支援無償

現地リソースを活用する

コミュニティ開発支援無償は現地のコミュニティの総合的な能力開発の支援を目的として、2006年度に開始された無償資金協力です。この支援を開始してから3年が経過し、初期の案件が終盤を迎えています。今回は、改めてコミュニティ開発支援無償の特徴や実施の流れ、この支援の実施におけるJICSの役割をご紹介します。

【“コミュニティ”への支援】

コミュニティ開発支援無償は、貧困、飢餓、疫病など、人命や安全な生活への脅威に直面しているコミュニティの総合的な能力開発を支援するための無償資金協力です。主に小中学校や一次医療施設の建設など、コミュニティに必要な不可欠な分野への支援を行っています。

この支援の大きな特徴は施工段階における現地企業・資機材の積極的な活用と、現地仕様・設計の導入です。現地の企業・現地の資機材の活用を可能としているため、入札者を日本法人に限定している一般プロジェクト無償よりも、入札の競争性が向上し、実施コストの縮減につながります。さらに現地仕様・設計の導入によって、現地のニーズに合った品質を確保しつつ、よりコストを縮減することが可能になると同時に、完成後、当該施設が相手国に引き渡された後の維持管理が円滑に行われるメリットも期待されています。

一方で、これらの案件の実施においては、現地企業の活用という面から、スケジュール管理や質の確保のためにさまざまなきめ細やかな配慮が求められます。こういった事情から、コミュニティ開発支援無償の案件実施に関しては高度な案件監理能力が必要とされます。

【支援の流れとJICSの役割】

コミュニティ開発支援無償は、開発途上国政府からの要請を踏まえ、実施妥当性の確認がな

CONTENTS

- P-1** 【特集】
4 コミュニティ開発支援無償
現地リソースを活用する
- P-5** 【新たな社会貢献】
JICS プロジェクト支援
- P-6** 【TOPICS】
環境プログラム無償
増える環境プロジェクト
- P-7** JICS NGO 支援事業
2009年度支援団体の決定
- P-7** 【NGO紹介】
国際子ども権利センター（シーライツ）
基盤作りの大きな「ちから」に
- P-8** 【JICSのうごき】
2009年度 第二回
通常評議員会・理事会を開催
日本女子大附属中の国際理解教室
へ出張講座
ワン・ワールド・フェスティバル
に出席
- P-8** 【在外勤務者リレーエッセイ】
将来の希望を育てる
ニカラグア・プロジェクトオフィス
宍戸 雄
- P-8** 【お知らせ】
事務所フロア移転
JICS 事業紹介DVD が完成



ガーナの主要産物カカオ豆と子どもたち

された後、日本政府と開発途上国政府との間で交換公文（E/N）の署名がなされ、実施が決定します。この後、独立行政法人国際協力機構（JICA）がE/Nに基づき相手国政府と贈与契約（G/A）を締結し*、プロジェクトが開始されます。

JICSは、このコミュニティ開発支援無償に関して、援助の実施決定後、相手国政府と調達代理契約を締結し、現地にプロジェクトオフィスを設置のうえ、相手国政府の「代理人」としての監理業務を実施しています。具体

的には援助資金を管理するとともに、国際競争入札により案件実施に必要な企業、機材などを選定し、契約を結びます。そして契約後は、工事の進捗管理や機材の納入管理など、プロジェクトが円滑に進むように、案件全体の監理を行います。案件実施中JICSは、援助資金の活用状況や案件の進捗を、調達代理契約を結んでいる相手国政府はもちろん、日本政府やJICAにも定期的に報告し、案件実施時の透明性の確保に寄与しています。

※2008年10月以降

チプロジェクト）1件です。

【事例】

この支援が開始されてから3年が経過し、初期の案件が終盤を迎えています。ここでは、無事に完了を迎えたマダガスカル案件と、2009年度から新たに始まったガーナ案件をピックアップしてご紹介します。

マダガスカル

アンツィラナナ州および

トリアラ州小学校教室建設計画

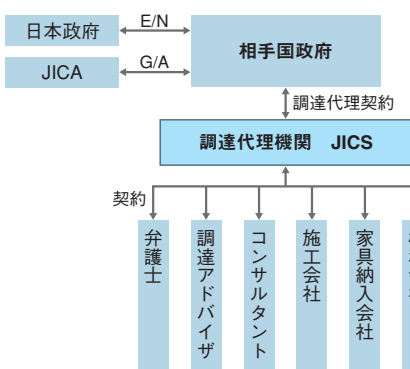
マダガスカルでは小学校1校あたりの教室数は全5学年に対して3.2教室しかなく、教室不足から二部授業、複式学級の実施を余儀なくされています。また、公立校の教室の10.3%は住民による仮設教室であり、毎年襲来するサイクロンにより損傷を受けた建物の修復も十分に行われていないため老朽化が進んでいます。

このような状況を受け、マダガスカルから日本に対して北東部のアンツィラナナ州と南西部のトリアラ州を対象とした、既存教室の建替えと

【JICS受託案件の傾向】

2006年度のコミュニティ開発支援無償開始以来、JICSが調達代理機関として業務を実施している案件は20件にのぼります。対象地域はアフリカ13件、アジア4件、中南米2件、中東1件で、アフリカが全体の7割近くを占めています。分野別にみると、小中学校建設14件、教員養成校建設3件、地下水給水施設建設1件、橋梁1件、道路・水路・林地・学校・保健センター等複数案件の複合型（マル

● コミュニティ開発支援の調達代理業務の実施体制（例）



● JICSの関わるコミュニティ開発支援無償





マダガスカル・アンツィラナナ州で開催された竣工式

新規教室の建設のための無償資金協力の要請があり、JICAによる調査後、「マダガスカル・アンツィラナナ州およびトリアラ州小学校教室建設計画」の実施が決定されました。

JICSはマダガスカル国民教育省の調達代理機関として、実施にかかわる調達業務と施工監理を行ってきました。

本案件では、建設された教室を子どもたちにできるだけ長く使ってもらえるよう、サイクロン耐性や耐震性を考慮して教室を設計しています。コスト削減が期待されるなかで、日本人スタッフ2名の他はすべて現地スタッフという厳しい体制での施工となりましたが、現地コンサルタントや関係企業の協力により、最終的には期待を上回る品質の教室を完成させることができました。



マダガスカル・トリアラ州の学校の竣工式

第1期トリアラ州の24校65教室、第2期アンツィラナナ州の28校139教室の建設と、椅子・机などの納入が完了したことから、2010年2月5日にトリアラ州、11日にはアンツィラナナ州で竣工式が盛大に開催されました。式の様子は多くの現地新聞で紹介され、多くの方に日本の援助を知ってもらう良い機会となりました。

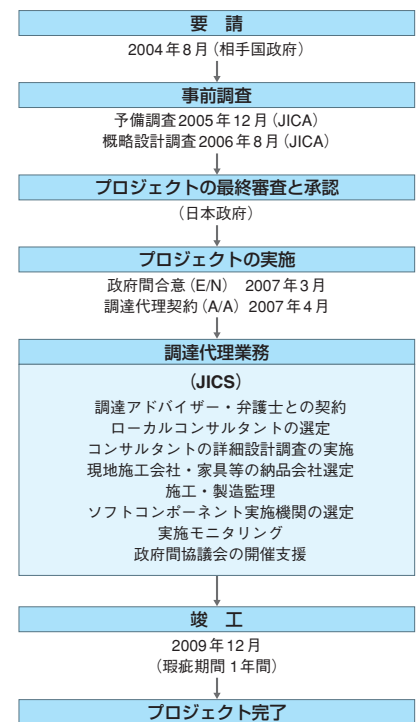
教室完成後は、「子どもたちがより快適な環境で授業を受けることができるように」と、現地施工会社が各教室の通風孔に自主的に防虫網を設置してくれるという、うれしい出来事もありました。

ガーナ 基礎教育機会改善計画

人口約2,390万人のガーナは、債務救済と緊縮財政により1人あたりのGNIは590ドルとなっていますが、インフレ率が2008年12月に18%を記録するなど、厳しい経済状況となっています。

ガーナの主要輸出品は、第1位がチョコレートの原料であるカカオ、そして金、木材と続きます。製造業がほとんど発展していないことから、農業や鉱業に依存した典型的な一次産品依存型経済となっており、例えば、シャンプーや石鹸などの生活必需品ですら輸入に頼らざるを得ず、

● マダガスカル・アンツィラナナ州およびトリアラ州小学校教室建設計画の業務の流れ



それが物価の高さにつながっています。

一次産品依存型の経済では国際市況や天候の影響を大きく受けやすいため、このような状況からの脱却を目指し、「人的資源の開発」を国家の優先課題としています。

近年、ガーナの総就学率は大きく向上していますが、その一方で地域間の格差が広がっている状況です。そのためガーナ政府は、全国138郡を順位付けして下位53郡を貧困郡と定



ガーナ・北アッシン郡の支援前の学校

義し、これらの地域の総就学率等の向上を目標としています。このような背景を受け、ガーナから日本に支援の要請があり、2009年8月、両国政府により「基礎教育機会改善計画」の実施が決定されました。

このプロジェクトでは、37校で小学校教室棟等（教室、倉庫付校長室）、中学校教室棟（倉庫付教室、倉庫付校長室、教員室）教員用宿舎等棟、トイレなどの建設と教育家具の調達を行います。全体を2つに分け、第1

期では16の小学校教室棟とトイレの建設、家具の調達を実施する予定です。

JICSはこのプロジェクトに関して、2009年10月13日、ガーナ教育省と調達代理契約を締結し、アクラ市内にプロジェクトオフィスを設置のうえ、資金管理をはじめとして、家具調達、施設建設、そしてそれらすべて



セントラル州北アッシン郡の子どもたち

を含めた案件全体の進捗管理を行っています。

プロジェクトサイトより Voice from Site

コミュニティ開発支援無償の大きな特徴である施工段階の現地企業の積極的な活用。これは、コスト縮減という効果のみにとどまらず、地域産業の振興や、建築分野での人材育成、技術レベルの向上にもつながることが注目されています。現地企業のスタッフに工期や品質、安全管理に関する意識が向上してきたうえに、日本の援助が地域の住民にも浸透してきています。

住民総出で道路補修

エチオピア

オロミア州小学校建設計画

「学校への道が大雨で被害を受け、建設工事車両が通れなくなり工事が中断しかかったときに、学校の先生、生徒、そして近隣の村人が総出で道路補修してくれました。これには建設会社も感謝し、泥でトラックが通行できない建築現場へはトラクターやロバの背に建設資材を積み搬入するなどして、工事が遅れないよう努力してくれました」

「現地コンサルタントは知識があるものの、スタッフの多くは現場の監理業務の経験が

ありませんでした。建設の工程では、各作業の完了後に悪い点を指摘するのでは、その作業を一からやり直すことになるため遅すぎます。作業前・作業中にタイムリーに指摘し、すぐに是正させることが大切なのです。そのため、机上でのアドバイスではなく、徹底的に現場作業の進捗に沿って、現場で監理のポイントを指導したところ、最後には納得し、効果があがりました」

「エチオピアの工事は半年・1年単位で遅れることが普通で、竣工後もきちんとした検査や手直しも行われていないケースが多い。そこで、今回現地コンサルタントスタッフと現地建設会社に、検査の実施とその後の手直し、完了確認、竣工証明の発行と最終支払いという一連の流れを確実に実行させたところ、両者とも、責任と達成感を感じたという感想がありました」
(JICS現地技術スタッフ)



ニカラグアのフェリシタ・ボンセ校で学ぶ子どもたち

仕事のノウハウを蓄積

ニカラグア

北部地域教育施設改修および機材整備計画

「日本の援助の仕事を通して、ニカラグアでのこれまでの仕事において意識せずに見過ごしていた仕事のノウハウを蓄積できていると思います」
(現地コンサルタント代表)

...

「今回のプロジェクトによって、特殊な土壌での施工方法に関する現地コンサルタントの能力が向上したと感じます。また、耐震設計に関するノウハウについて学ぶ良い機会となっていると思います。また、安全意識が向上した点も大切なことだと思います」
(JICS現地技術スタッフ)

コミュニティ開発支援無償によって建設された学校が、次々と相手国へ引渡されています。現地から届いた感謝の言葉をご紹介します。

忘れられない贈り物

ニジェール

マラディ州およびザンデル州小中学校教室建設計画

「この村の小学校は、2003年に設立され、生徒45人から今日では定員247名となり、2009年6月の卒業試験は30名のうち27名が合格しました。このプロジェクトで3教室棟1棟、2教室棟1棟、トイレ1棟を作っただけで、学習環境が改善されました。ニジェールとこの村にとって前例ない歴

史的な忘れられない贈り物です」

(ザンデル州ビルディギル・ゾンゴ・アマン村小学校長アブドゥル・ラザク・ジョリ)



謝辞を読むビルディギル・ゾンゴ・アマン村村長

...

「JICSを通じて教室とトイレを建設してくれたことに感謝します。建物を維持管理し適切に使用することを約束します」

(マラディ州ダンガリ学校運営委員会)

心からの感謝

マダガスカル

アンツィラナナ州およびトリアラ州小学校教室建設計画

「第1期トリアラ地方アツィモ・アンドレファナ、第2期アンツィラナナ地方サバの建設工事を優れた監理により、納期内に完了させた努力に対し、ここに心からの感謝の意を表します」

(国民教育省事務局長、基礎教育・識字教育局長)

新たな社会貢献

「JICSプロジェクト支援」

JICSは、1989年の設立以来、途上国支援において、現地で必要な機材や役務を適正かつ効果的に選定・調達してきました。近年では現地の資材・建設会社により工事を行う施設案件が増えており、JICSは、現地にプロジェクトオフィスを設置し、調達業務とマネジメント業務を実施しています。

これらを背景に、JICSでは設立20周年を機に、2009年度より「プロジェクト支援」を開始しました。これは、JICSが調達代理機関として関わった施設(学校、病院など)が完成した際に、その施設で役立つ物資を贈るものです。完成した施設の関係者の希望をもとに決定し、JICSの自主財源で購入します。2010年2月に降に完成した施設に、この支援を始めています。

レトで ～教材やボールを贈呈～



引渡し式でスピーチする小澤駐レト大使(南アフリカ共和国にて兼轄)

レトで2008年3月から実施されてきたコミュニティ開発支援無償「中等学校建設計画」。この案件は、7県に各1校ずつ5年制中等学校を建設するもので、JICSは現地にプロジェクト事務所を設置して実施監理を行ってきました。

今回、6校の工事が終了したことを受け、2010年3月5日、竣工した学校のうちの一つ、首都マセル市のマン工高校で引渡し式が開催されました。式典は、レト側からはモシシリ首相、教育大臣など主要閣僚、日本側からは小澤駐レト大使(南アフリカ共和国にて兼轄)、JICA南アフリカ共和国事務所次長らが参加し、多くの



招待客や150人の生徒、約100人の地域住民が見守るなかで行われました。

式典の最後に、JICSの「プロジ

エクト支援」による記念品が紹介されました。今回は、各校の校長や先生の要望をもとに、算数教育に必要な道具類(黒板用定規のセットとコンパス)、地理用教材(地球儀、世界地図)と、レトで人気の球技のボール(サッカーボール、バレーボール、ネットボール)を贈呈しました。サッカーボールが紹介された際には、生徒から一段と大きな

歓声があがりました。後日、各校に配布した際には、先生や全校生徒から歌や踊りで大歓迎を受けました。

JICSからの記念品と各学校の校長



記念品のボールを持つ生徒たち



踊りを披露する生徒たち

環境プログラム無償 増える環境プロジェクト

日本政府は2008年1月、気候変動問題への対策として「クールアース・パートナーシップ」を発表し、その後、2009年9月に一層積極的な支援を盛り込んだ「鳩山イニシアチブ」を表明しました。

支援の対象は、開発途上国のなかで、排出削減に意欲的に取り組んでいる国、あるいは干ばつや砂漠化といった気候変動の悪影響に脆弱な状況にある国が対象となっています。

これらの取組みの一環として、2008年度に「環境プログラム無償」が創設され、開発途上国への本格的な支援が開始されました。

JICSはこの「環境プログラム無償」において、開発途上国政府との契約に基づき、調達代理機関として供与資金を適正に管理するとともに、資機材や役務の調達とプロジェクト全体のマネ



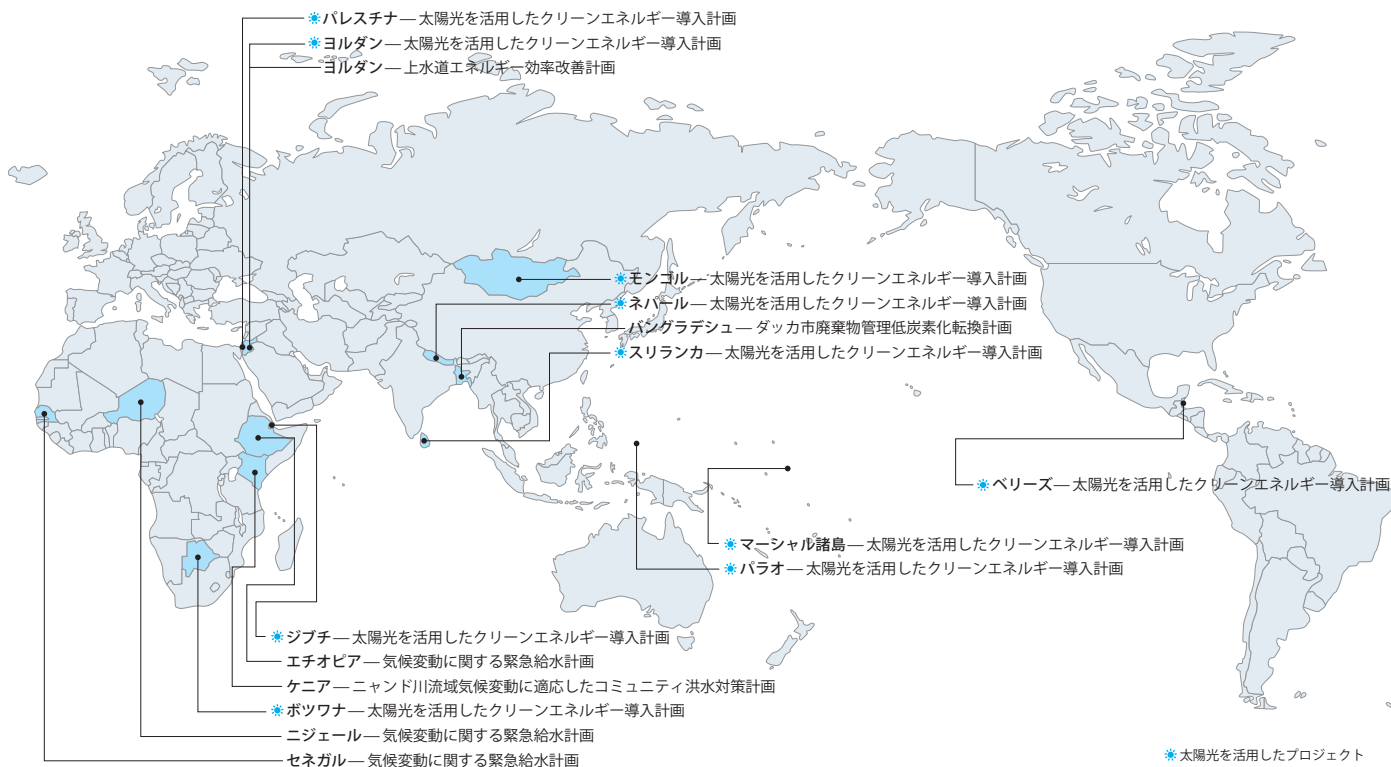
ケニア「ニヤンド川流域気候変動に適応したコミュニティ洪水対策計画」で橋を架ける予定地

ジメントを行っています。

2010年3月現在、JICSが相手国政府と

調達代理契約を締結しているプロジェクトは以下のとおりです。

● JICSが調達代理業務を行っている環境プログラム無償 (2010年3月現在)



JICS NGO支援事業 2009年度支援団体の決定

JICS は国際協力活動を行うNGOの活動を支援するため、NGO支援事業を実施しています。これはNGOのプロジェクト事業費や団体基盤強化費を、1団体あたり100万円を上限に支

援するものです。JICSは毎年10団体程度に対して支援を行っており、これまでに支援した団体はのべ110団体、支援総額は9000万円にのぼります。2009年度の申請傾向は、設立後

間もない団体からの申請と、団体基盤強化費の申請が多くみられました。

今後も、NGOのニーズの把握に努め、役立つ支援のあり方を検討していきたいと考えています。

2009年度支援団体 (50音順)

団体	活動国	対象事業	支援内容/支援金額
(特活) アマニ・ヤ・アフリカ	ケニア	スラムの住民に対して、洋裁技術の訓練とエコバッグ普及プロジェクトを行い、住民の経済的自立に向けた支援を行う	資機材の購入費/輸送費、プロジェクト運営費、団体運営費 1,000,000円
(特活) AMURT Japan	ニジェール	女性の乾季野菜栽培に対する支援を行う。余剰作物の効率的な販売などにより収益を向上させる指導も行う。あわせて子どもたちの栄養改善のための研修も実施する	資機材の購入費/輸送費、プロジェクト運営費 910,620円
(特活) ACE	インド・ガーナなど	団体の取組みや社会への提言、啓発を目的として発行しているメールマガジン送付システムを改善し、支援者の拡大を目指す	団体基盤強化費 994,700円
(特活) 沖縄 NGO センター	日本	組織基盤強化のためのデータベースを構築し、県内 NGO 向けの人材育成講座を開催する。広報活動、資金調達を含む活動全般を向上させる	資機材の購入費、プロジェクト運営費、団体運営費、団体基盤強化費 1,000,000円
(特活) 関西 NGO 協議会	日本	複数 NGO の協同キャンペーンを開催する。NGO 職員のマーケティングなどのキャパシティビルディングの向上、協賛・協力企業とのつながり獲得を目指す	プロジェクト運営費 1,000,000円
(特活) 国際インフラ調査会	ミャンマーなど	ミャンマーにおける日本の道路舗装技術の歴史を紹介した技術図書の翻訳を行う。途上国からの参加者に翻訳した図書を配布することにより、途上国のインフラ整備に関する技術向上を目指す	資機材の購入費/輸送費、プロジェクト運営費、団体運営費 720,700円
スタディツアー研究会	日本	スタディツアーを行っているNGO約50~100団体の共同サイトの立ち上げ、スタディツアーの周知に努める。またツアー担当者対象の研修を行い、ツアー企画力や実践力を高める	プロジェクト運営費、団体運営費 1,000,000円
(特活) ソルト・パヤタス	フィリピン	報告書やニュースレターの発送などの広報活動全般の効率化のためにスタッフを拡充する。また、フェアトレード販売用サイトやパンフレットなどの改訂を行う	団体基盤強化費 1,000,000円
(特活) チェルノブイリ救援・中部	ウクライナ	放射能汚染土壌の浄化を目的としたナタネ栽培を行う。また、効果測定のための化学分析、専門家派遣も実施する	資機材の購入費/輸送費、プロジェクト運営費 1,000,000円
(特活) 日本カンボジア交流協会	カンボジア	職業訓練センター卒業生向けの道具の支給支援を行う。センターで身に付けた技術を活かした社会復帰、自立を支援する	資機材の購入費/輸送費 600,000円
(特活) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	フィリピンなど	ホームページの改善、携帯電話専用サイトの開設などを行い、広報の強化をはかる	団体基盤強化費 1,000,000円

【NGO紹介】

このコーナーでは、これまでにJICSが支援した団体より、事業実施状況について報告していただきます。

基盤作りの大きな「ちから」に

【国際子ども権利センター(シーライツ)】



広報活動の一環としてグローバルフェスタに出展

2008年2月から1年間にわたり、東京事務所スタッフの2名分の人件費の一部と、パソコン購入費用の一部をJICSに支援いただきました。この支援は、組織基盤を強化し団体の運営を支えるだけでなく、より高度な技術で開発途上国の支援を行うための基盤作りに、大きな「ちから」となりました。

当団体は、「子どもの権利」を普及し実現するために、過去15年にわたって任意団体として

JICS NGO支援事業：2008年度

対象国：カンボジア

支援事業の内容

ホームページの定期的更新、スタディツアーの企画、支援者データベースの管理などを行うための人員を増やし、業務拡大を目指す。

活動してきました。しかし、より専門的にアジアの子どもたちの支援を行うことをめざして、2007年にNPO法人化し、有給専従スタッフを雇用して新たなスタートを切りました。

スタッフ雇用後は、子どもたちへの支援のさらなる充実と、支援者へむけたアカウンタビリティ向上を目標に掲げ、会計システムの整備や積極的な広報活動を行うことを重点に業務を進めました。2008年からは、ホームページのリニューアル、口座振替によるマンスリー寄附制度の立上げ、会員・支援者管理データベースの構築、会計帳簿のファイリング、3つの事務所の領収証の一括保管、NPO法人として必要な会計書類の作成、アニュアル・レポートの作成と情報開示、積極的な助成金の申請など、専

門的技術を持つ2名のスタッフによって実にさまざまな業務がシステム化され、組織として大きな躍進を遂げることができました。

今後は、カンボジアなどで実施しているプログラムの安定した継続的な支援と、そのさらなる発展を目指し、この支援によって築くことのできた組織基盤の上に、国内における支援者拡大と財政安定をはかります。

特定非営利活動法人国際子ども権利センター(シーライツ)

世界中のすべての子どもに「生きる・発達する・保護される・参加する」権利が等しく与えられる社会を目指し、1992年に設立した国際協力NGO。カンボジアとインドの子どもたちを人身売買や性的搾取から守り、自立を支援するプロジェクトなどを行っている。



リレーエッセイ No.16

将来の希望を育てる

突戸 雄

ニカラグア・プロジェクトオフィス

高台から一望すると意外に緑の多い首都マナグアに、オフィスはあります。乾季が11月～4月、雨季が5月～10月ですが、年間を通して暑く、紫のブーゲンビリアの花と木々の緑が景観にアクセントを与えています。

プロジェクトオフィスは、日本大使館から徒歩30秒のビルに間借りをして、コミュニティ開発支援による26校の学校建設と機材整備のプロジェクトの仕事をしています。

現在学校を建設しているのは北部の山岳地帯で、手つかずの自然に囲まれている場所もあります。プロジェクト終了後、多くの子供たちは舗装されていない山道を毎日登校することになりますが、新しい校舎に通うことが勉強する励みになってくれるものと期待しています。

ニカラグアは隣国との戦争、内戦、地震やハリケーンなどの自然災害、政治混乱に翻弄され、多くの大人が心の傷を抱えたまま生活していますが、子供たちこそが国の将来の希望だといえます。働く子どもも多くなかで、教育の重要性も改めて見直されてきています。

日本の援助で建てられた学校から、この国の将来を担う人々が数多く巣立ってくれること、両国の友好関係と「アミーゴ」の絆を深める機会が増えることを願い、私たちがプロジェクト遂行に努めたいと思います。



野外で学ぶモンセニョール・ホセ・デル・カルメン校の子供たち

JICSの うごき

2009年度 第二回 通常評議員会・理事会を開催

3月18日、2009年度第二回通常評議員会および理事会を開催しました。

評議員会では、(1)2009年度事業計画と収支予算(改定)、(2)2010年度事業実施方針と事業計画、(3)2010年度収支予算について審議が行われ、承認されました。理事会でも(1)～(3)について審議が行われ、議決されました。



第二回理事会

評議員会と理事会では、それぞれでコミュニティ開発支援無償の概要について、担当課長が地図や写真などを用いて説明を行い、評議員会と理事会の間の昼食時には、JICSの事業紹介DVDの上映、平木評議員によるグアテマラ防災・災害復興支援プロジェクトに関するJICS事業評価調査の報告が行われました。

日本女子大附属中の国際理解教室へ出張講座

2月20日、日本女子大学附属中学校2年生の国際理解教室に、JICS職員がゲスト教師の1人として招かれ、講義を行いました。

第1部では、アフガニスタン支援の必要性、ODAとNGOの違い、復興支援の経験話し、「危険な中でどのような気持ちで仕事をしているのか」などの質問がありました。第2部では「アフガニスタンの平和のために、今私たちができること」というテーマでパネルディスカッションが行われ、他のゲスト教師とともに、「どうしたら相手の立場に立って考えることができるか」などの質問に答えました。

日本女子大学は5女子大学コンソーシア



学年全員参加の第2部のパネルディスカッション

ムを結成し、2002年5月よりアフガニスタンの女性教育支援プログラムに参加。附属中学・高校に同国の女性教員の視察や女子高校生への留学を受け入れています。

ワン・ワールド・フェスティバルに出展

2月6日、7日、大阪国際交流センターで「ワン・ワールド・フェスティバル」が開催され、



アフリカ支援ツアーで参加者に説明するJICS職員

JICSはODA合同ブースの一員として参加しました。合同ブースでは、ミニトークとアフリカ支援ツアー企画を実施し、ODAの概要とそれぞれの組織の役割、具体的な活動内容を紹介しました。

JICSブースでは、ODAにおけるJICSの位置付けや役割を紹介し、調達業務や進捗管理、資金管理の必要性について説明を行いました。また、NGO/NPO支援制度説明会に参加し、JICS NGO支援事業について紹介しました。

お知らせ

事務所フロア移転

JICSは、現在執務しております新宿EASTビル内でフロアを移転しました。

日付	部門	旧	新
3月8日～	役員、業務監査室、契約審査室、総務部	6階	2階 (ロビー階)
5月6日～	業務第一部、業務第二部	5階	3階

この移転にともなう電話・FAX番号の変更はありません。

JICS事業紹介DVDが完成

一般の方に向けて、ODAやその中でのJICSの役割、具体的な業務の流れなどをわかりやすくご紹介することを目指し、JICS事業紹介DVDを制作しました。今後、イベントへの出展時や総合学習の場などで活用していく予定です。